

授業計画(シラバス)

教科	学科 自動車工学	科目	エンジン系応用構造 (学科)		対象級	専門課程 自動車整備科 2年	作成月日	25/04/01
							開講期	前期
教科担当		別表参照						
実務経験教員授業		非該当	総時限	21時限	授業方法	講義	評価方法	学科試験 単元・期末試験 取組加減
[授業概要・目的]								
ガソリンエンジンの構造、機能、整備について学習することで、二級ガソリン自動車整備士国家試験（登録試験）のエンジン及び電装部門において合格できるレベルの知識習得を目的とする。								
[授業の到達目標]								
STEP1: 二級ガソリン自動車教科書のエンジン及び電装領域を中心に、各章のエンジン及び電装の構造、機能、整備の知識を習得する。								
STEP2: 二級ガソリン自動車教科書のエンジン及び電装領域を中心に、登録試験部門別過去問題を活用し各章の理解度向上を図る。								
[学習評価の基準]								
各試験点数の基準、授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
5: 特に成績優秀なもの 4: 成績良のもの 3: 成績普通のもの 2: 成績やや劣るもの 1: 成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は 5: 90 ～ 100点 4: 75 ～ 89点 3: 60 ～ 74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
[使用教科書・教材等]								
二級ガソリン自動車エンジン及び電装編、登録試験部門別過去問題、復習プリント								
授 業 計 画 表								No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)						
1	1	ガソリンエンジンの総論(性能、燃焼)						
	3	エンジン本体の構造・機能						
	1	潤滑装置、冷却装置、燃料装置の構造・機能						
	1	吸排気装置と燃料及び潤滑剤の構造・機能						
	3	電気装置 始動装置、充電装置、点火装置の点検方法						
	1	電子制御装置の構造・機能						
	1	単元学科確認						
2	7	ガソリンエンジン登録試験部門過去問題						
	1	ガソリン総合復習問題						
	2	電子制御装置の各種補正						

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	学科 自動車整備	科目	シャシ系応用構造		対象級	専門課程 自動車整備科 2年	作成月日	25/04/01
							開講期	前期
教科担当	別表参照							
実務経験教員授業	非該当	総時限	21時限	授業方法	講義	評価方法	学科試験 単元・期末試験	
〔授業概要・目的〕								
シャシ系の構造、機能、整備について学習することで、二級ガソリン、ジーゼル自動車整備士国家試験（登録試験）のシャシ部門において合格できるレベルの知識習得を目的とする。								
〔授業の到達目標〕								
シャシ性能総論、AT、油圧PS、アライメント要素、クラッチ、トルクコンバータ、サスペンション性能、ABS、TCS等の機能構造作動等について理解習得する								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点 60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
〔使用教科書・教材等〕								
二級自動車シャシ、三級自動車シャシ、								
授 業 計 画 表								No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)						
		第2章 動力伝達装置						
1	1	マニュアルの伝達効率、機能、構造を学ぶ						
	1	トルク コンバータについて学ぶ						
	1	ATに関する各部センサーの目的、役割と安全装置について学ぶ						
	1	旋回性能、油圧式パワーステアリングの種類、構造、機能を学ぶ。						
	2	キャンバー、キャスター、キングピン傾角について役割を学ぶ						
	1	バッテリーの機能、整備知識を学ぶ						
	1	計器(メータ、インジケータ)、警報装置の回路構造機能を学ぶ						
	1	外部診断機、CAN通信の機能を学ぶ						
	1	SRSエアバッグ、シートベルトの機能構造を学ぶ						
	1	単元確認						
2	1	制動倍力装置一体型、分離型の構成部品、構造、作動を学ぶ						
	1	乗用車、トラックの種類とボデー安全構造の特徴を学ぶ。						
	1	ボデーの振動、揺動、サスペンションの特性を学ぶ。						
	1	旋回性能を学ぶ。アンダー、オーバー、ニュートラルステア						
	2	ABS、TCSの油圧制御サイクルを学ぶ						
	2	第1章から第7章までの学科総合復習の実施						
	1	エアコンの分類、機能構造を学ぶオートエアコンの風量制御、温度制御を学ぶ						
	1	EPSの種類、構造機能を学ぶEPSの整備法を学ぶ						

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	学科 自動車工学	科目	ジーゼル自動車 (学科)		対象級	専門課程 自動車整備科 2年	作成月日	25/04/01
							開講期	後期
教科担当	別紙参照							
実務経験教員授業	非該当	総時限	15時限	授業方法	講義	評価方法	学科試験 単元・期末試験	
〔授業概要・目的〕								
ジーゼルエンジンの構造、機能、整備について学習することで、二級ジーゼル自動車整備士国家試験（登録試験）の								
エンジン部門において合格できるレベルの知識習得を目的とする。								
〔授業の到達目標〕								
STEP1: 二級ジーゼル自動車エンジン編教科書を中心に、各章のエンジン構造、機能、整備の知識を習得する								
STEP2: 二級ジーゼル自動車エンジン編教科書及び、登録試験部門別過去問題を活用し各章の理解度向上を図る								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
5: 特に成績優秀なもの 4: 成績良のもの 3: 成績普通のもの 2: 成績やや劣るもの 1: 成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は 5: 90 ～ 100点 4: 75 ～ 89点 3: 60 ～ 74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
〔使用教科書・教材等〕								
二級ジーゼル自動車エンジン編、登録試験部門別過去問題、復習プリント								
授 業 計 画 表								No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)						
1	1	ジーゼルエンジンの総論(性能、燃焼)						
	1	エンジン本体の構造・機能						
	1	潤滑装置と冷却装置の構造・機能						
	2	燃料装置の構造・機能						
	1	吸排気装置と電気装置の構造・機能						
	1	燃料の性質、潤滑剤(エンジンオイルの添加剤)						
	1	ジーゼル総合復習						
	1	単元学科確認						
2	5	ジーゼルエンジン登録試験部門過去問題						
	1	ジーゼルエンジン総合復習						

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	学科 自動車工学	科目	総合自動車工学			対象級	専門課程 自動車整備科 2年	作成月日	25/04/01
								開講期	後期
教科担当	別紙参照								
実務経験教員授業	非該当	総時限	16時限	授業方法	講義	評価方法	学科試験		
〔授業概要・目的〕									
・国家2級ジーゼル・ガソリン資格の学力を習得する。									
・総合自動車工学の基礎的な学力習得する。									
・ホンダ4輪SE3級レベルの知識を習得する。									
〔授業の到達目標〕									
STEP1・2:エンジン・電装・シャシ・検査の各領域に関連のある工学の知識を習得する									
登録試験過去問題を活用し工学部門の理解度向上を図る									
ホンダ4輪SE3級テキストを活用し理解度向上を図る									
実施要領									
・各単元で公論社問題集(ジーゼル)の担当分野を振り分け、解答解説を行い学力向上を図る。									
・ホンダ4輪SE3級対策プリントを作成、クラス別に実施し、解答解説を行う。									
・JAMCA統一問題に向け、前年度の登録試験、検定試験問題を練習問題として、実施。解答解説を行う。									
・ジーゼルのストレート問題を実施し、実力と弱点の確認を行う。									
〔学習評価の基準〕									
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。									
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの									
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点									
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。									
〔使用教科書・教材等〕									
二級自動車ガソリン、二級自動車シャシ、計算のノウハウ、SE三級ソフト、ハード編									
授 業 計 画 表									No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)							
1	8	公論社2級ジーゼル練習問題集を各単元に振り分け実施と解説							
	2	実力確認							
	2	JAMCA統一模擬問題実施							
	4	ホンダ4輪SE3級練習問題実施							

授業計画(シラバス)

[illegible]

授業計画(シラバス)

教科	学科 自動車整備	科目	故障原因探求			対象級	専門課程 自動車整備科 2年	作成月日	25/04/01
								開講期	後期
教科担当	別紙参照								
実務経験教員授業	非該当	総時限	15時限	授業方法	講義	評価方法	学科試験 単元・期末試験	取組加減	
〔授業概要・目的〕									
機械系の故障診断における診断方法と対応手法を理解習得する。一級資格につながる電子制御系統の診断手法の基本を理解習得する。整備に関する制度などの基本的な事項を理解する。									
〔授業の到達目標〕									
1) 自動車の故障と探求教科書を中心に、各章の電気装置、電子制御装置の故障探求についての知識を習得する。									
2) 低圧電気取り扱い特別教育テキストを中心に、HV車の構造、機能、整備、電気安全知識について習得する。									
〔学習評価の基準〕									
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点									
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。									
〔使用教科書・教材等〕									
自動車の故障と探求、低圧電気取り扱いテキスト、2級シャシ、2級ガソリン、ホンダSE3級テキスト(ハード偏)等									
授 業 計 画 表									No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)							
1	1	低圧電気取り扱い講習①							
	1	低圧電気取り扱い講習②							
	1	低圧電気取り扱い講習③							
	1	充電装置の故障探求							
	1	点火装置の故障探求							
	1	始動装置の故障探求							
	1	PGM-FIの故障探求①							
	1	エアコンの故障探求							
	1	単元確認							
	1	PGM-FIの故障探求②							
	1	SRSエアバッグ							
	1	HDS 通信システム							
	1	エアコンデショナー							
	2	総合復習							

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	学科 自動車整備	科目	総合自動車整備シャシ		対象級	専門課程 自動車整備科 2年	作成月日	25/04/01
						開講期		後期
教科担当	別表参照							
実務経験教員授業	非該当	総時限	15時限	授業方法	講義	評価方法	学科試験 単元・期末試験	
〔授業概要・目的〕								
シャシ系の構造、機能、整備について学習することで、二級ガソリン、ジーゼル自動車整備士国家試験（登録試験）のシャシ部門及び、SE3級において合格できるレベルの知識習得を目的とする。								
〔授業の到達目標〕								
受付から故障探究、引き渡しめでを理解習得する。								
マニュアル・トランスミッション、ステアリング、ブレーキ、オートマチック関連の故障探究について理解習得する。								
CVT、DCT(トランスミッション)の動力伝達～全般を理解する。								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
〔使用教科書・教材等〕								
二級自動車シャシ、三級自動車シャシ、点検の手引き、SE三級ハード編								
授 業 計 画 表								No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)						
1	1	受付から引き渡しまでの一連の流れを学ぶ						
	1	マニュアル・トランスミッションの故障探究						
	2	ステアリング装置の故障探究						
	1	制動倍力装置の故障探究						
	2	オートマチック・トランスミッションの故障探究						
	1	学科復習						
	1	単元確認						
2	2	電子制御5AT、CVT,DCTの構造、機能、作動を学ぶ。						
	1	油圧パワーステアリング、ABSの構造、機能、作動を学ぶ。						
	1	サスペンションの故障探究						
	2	シャシ学科復習						

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	学科 自動車検査	科目	総合自動車整備 検査		対象級	専門課程 自動車整備科 2年	作成月日	25/04/01
							開講期	後期
教科担当	別紙参照							
実務経験教員授業	非該当	総時限	15時限	授業方法	講 義	評価方法	学科試験	単元・期末試験 レポート評価 取組加減
〔授業概要・目的〕 電子制御サスペンションについて理解する。 関係法令の理解度を深める。								
エアサス, エアブレーキといったエア関連の機構を理解する。 大型車両のタイヤ, ホイールの理解。								
大型車両の補助ブレーキについて理解する。 4WD機構について理解する。								
〔授業の到達目標〕								
大型コンプレッサ・関連装置の復習。大型車輛のエア・スプリング, 関連装置を理解する。大型ABSの理解。								
乗用車電子制御式サスペンションを理解する。大型バス・トラックの電子制御式エアサスペンションを理解する。								
大型車輛のホイールの取り扱い, JIS・ISO方式の理解。タイヤの復習。								
補助ブレーキ, ブレーキ・バルブ, 補助ブレーキの理解。4WDの理解とホンダDPS・AWDの概要・作動の理解。								
大型車に特化した道路運送車両法・保安基準を理解する。								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
〔使用教科書・教材等〕 2級、3級シャシ 法令教材 点検の手引き ホンダSE3級テキスト								
授 業 計 画 表								No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)						
1	1	電子制御式サスペンション・エアサスペンション(大型) 機能・構造・役割						
	1	大型コンプレッサ 機能・構造・役割						
	2	エアブレーキ(大型) 機能・構造・役割						
	2	補助ブレーキ(大型) 機能・構造・役割						
	2	保安基準(大型のみの部分) 巻込み防止装置・突入防止装置・非常口・側方灯／側方反射器 等						
	1	単元確認						
	2	4WD(AWD)・DPS 4WDシステムの機能・構造・役割 HONDAのシステムの理解						
	1	タイヤ・ホイールのまとめ(小型・大型) 機能・構造						
	1	後期まとめ 後期検査単元での復習(学科・実習とわず)						
	2	検査まとめ 1年間を通しての復習(公論者 プリントベース)						

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	学科 自動車検査	科目	自動車検査		対象級	専門課程 自動車整備科 2年	作成月日	25/04/01
							開講期	前期
教科担当	別紙参照							
実務経験教員授業	非該当	総時限	13時限	授業方法	講義	評価方法	学科試験 単元・期末試験	取組加減
〔授業概要・目的〕 車両法を理解し、車検証や、別表の内容を理解する タイヤ・ホイールに関する理解を深める								
軸重計算を理解する 自動車及ばず環境への問題、これからの自動車の環境への取組みについて理解する								
〔授業の到達目標〕								
車両法を理解する 軸重計算を理解する 潤滑剤、自動車材料について理解する								
車検（継続検査）の種類と記入方法、手続き方法等を理解する。車両安全装置の理解								
車検証と別表の見方を理解できる 記録簿の内容の理解と記入 大型エア装置と圧縮空気の流れを理解する								
自動車検査機器の必要性及び取り扱い方法、法的な内容を含め理解する								
保安基準を理解し、法令に係る安全装置を理解する								
差動制限型ディファレンシャル装置の構造・機能・役割について理解する。								
タイヤの動・静荷重半径・発熱・走行音・摩耗・扁平比を理解する 自動車の環境、公害、リサイクル等の理解。								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
〔使用教科書・教材等〕 2級、3級シャシ 法令教材 点検の手引き ホンダSE3級テキスト								
授 業 計 画 表								No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)						
1	1	授業導入 単元の進め方や設備の使用方法						
	3	車両法 第1章～第7章（抜粋） 施行規則の別表 点検基準						
	1	タイヤ・ホイール 概要 機能・構造						
	1	計算 圧力計算 軸重計算						
	1	単元確認						
2	1	法令・計算 過去問題						
	1	機器 検査業務に必要な検査機器						
	1	環境とリサイクル 自動車の環境問題とその取組みと国のシステム						
	1	油脂・材料 潤滑剤に使用されている添加剤と自動車材料						
	1	差動制限型ディファレンシャル 機能・構造・役割						
	1	前期まとめ 前期授業の総まとめ						

授業計画(シラバス)

[illegible]

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実習 自動車整備作業	科目	エンジン系応用構造 (実習)		対象級	専門課程 自動車整備科 2年	作成月日	25/04/01
							開講期	前期
教科担当	別紙参照							
実務経験教員授業	非該当	総時限	59時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験	単元・期末試験 レポート評価 取組加減
〔授業概要・目的〕								
ガソリンエンジンの分解・組立整備を通じて、構造・作動の理解と、各部の点検測定や調整が出来るようになること								
整備現場で実践できる知識及び技術習得を目的とする。								
〔授業の到達目標〕								
STEP1: 二級ガソリン自動車教科書のエンジン・電装領域をベースに、分解、点検、組立技能、構造、作動、名称、役割の習得。								
STEP2: 実車のエンジン整備やトレーニングボードを活用して、分解、点検、組立技能、構造、作動、名称、役割の習得。及び外部診断機								
(HDS)の活用方法を習得								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)								
〔使用教科書・教材等〕								
エンジン部品、エンジン単体、完成車								
授 業 計 画 表								No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)						
1	2	ENG実践整備 I (オイル交換)						
	2	過給機単体の構造・機能						
	4	S07A吸排気装置&ラッシュアジャスタの構造・機能						
	2	LPG燃料装置の構造・機能						
	2	ロータリ・エンジンの構造・機能						
	4	V型6気筒エンジンの分解・組み立て及び構造・機能						
	2	エンジン総合復習						
	2	始動装置の点検						
	4	充電装置の点検						
	2	点火装置の点検						
	2	オシロスコープの使用方法						
	2	HDS(Ⅰ)の基本操作						
	4	実車 始動・充電装置の脱着						
	2	エンジン電装総合復習						
	1	単元実習確認						

2	4	ENG実践整備Ⅱ（バルブクリアランス調整）
	4	単体エンジンのメタル勘合
	6	VTECの構造・機能
	2	エンジン総合復習
	2	外部診断器の基本操作
	4	電子制御装置の構造・機能

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実習 自動車整備作業	科目	シャシ系応用構造		対象級	専門課程 自動車整備科 2年	作成月日	25/04/01		
						開講期	前期			
教科担当	別表参照									
実務経験教員授業	非該当	総時限	59時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験	単元・期末試験	レポート評価	取組加減
〔授業概要・目的〕										
シャシ系の構造、機能、整備について実習することで、二級ガソリン、ジーゼル自動車整備士国家試験（登録試験）のシャシ部門において合格できるレベルの知識習得を目的とする。										
安全作業、測定器具の取り扱い、分解方法を習得する。										
〔授業の到達目標〕										
AT、MT、CVT、油圧PS、アライメント、ブレーキ、サスペンション、構造、脱着、分解、組付、測定を理解習得する。										
12ヶ月点検項目に対し点検方法、良否判断手法を学ぶ。										
各測定に対し、適正な器具選び及び測定箇所にて正確な読み取り方を学ぶ。										
〔学習評価の基準〕										
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。										
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの										
各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点										
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。										
〔使用教科書・教材等〕										
二級自動車シャシ、三級自動車シャシ、点検の手引き										
授 業 計 画 表										No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)								
1	4	実車を用いて測定部位に関して測定方法を学ぶ								
	4	CVTの動力伝達、構造、作動を学ぶ								
	4	ラックピニオン型のコントロールバルブの作動を学ぶ								
	2	MT実車を使用し取付部位および油圧伝達順を学ぶ								
	2	ターニングラジাসゲージを使用し測定方法を学ぶ								
	2	キャリパー、ドラム、マスターシリンダの分解、組付けを学ぶ								
	4	安全作業についてと12ヶ月点検作業内容を学ぶ								
	2	ブレーキパッド、シューブレーキ脱着を学ぶ								
	4	一軸ATの動力伝達(1速～4速、リバース)を学ぶ								
	2	比重測定、比重からの起電力計算と放電容量の関係を学ぶ								
	2	フューエルポンプの脱着をして、センダユニットの点検法を学ぶ								
	2	実車での脱着を行いSRSエアバッグの機能構造を学ぶ								
	2	灯火装置の回路と診断方法を学ぶ								
	1	実習確認								

2	2	ドラムインディスクブレーキ(単品)分解、組付け
	2	コイルスプリングの脱着 サイドスリップテスターを使用しタイロッドにて調整
	6	記録簿記載時の記入欄の説明各点検項目の点検方法、調整方法を学ぶ。
	2	トルクコンバーターの構成部品について学ぶ。
	2	AT油圧制御(1速～4速、リバース)の伝達について学ぶ。
	2	三軸AT油圧制御、構造作動を学ぶ。
	2	単元復習(ステップ2の見直し)
	2	冷媒確認用モデルを使用し冷媒サイクルを学ぶ
	2	単品のEPSを分解し、構造作動を学ぶ

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実習 自動車整備作業	科目	実践自動車整備2 (企業実習)	対象級	専門課程 自動車整備科 2年	作成月日	25/04/01
						開講期	後期
教科担当	別紙参照						
実務経験教員授業	該当	総時限	28時限	授業方法	実習・実技	評価方法	レポート評価 取組加減
・自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。							
〔授業概要・目的〕							
体験実習を通じて、お客様視点に立った行動を直接学ぶことで、自分自身の入社後のありたき姿を考えイメージできるようにする。併せて内定先で働くことへの期待とモチベーションの高揚を図る。							
〔授業の到達目標〕							
・販売店の1日の流れ、時間意識を身に付ける。 ・お客様(接客)を実践的に体験する。							
・販売店の受付から出荷までの作業を実施体験する。 ・実践に基づく点検整備、一般整備を体験する。							
〔学習評価の基準〕							
挨拶・身だしなみ・取り組み姿勢・積極性・お客様意識・整備実践力など5段階で評価							
毎日のレポート提出による評価							
〔使用教科書・教材等〕							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
学 内 実 習		◎企業からの派遣講師及び実務経験のある教員による指導を中心に各項目を実施する					
	12	エンジン整備・一般作業・まごころ点検					
	12	車検・点検整備・洗車(販売店の受付から出荷までを模擬体験)					
	4	片付け・清掃の実施(お客様意識の向上)					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実習 自動車検査作業	科目	自動車検査(実習)		対象級	専門課程 自動車整備科 2年	作成月日	25/04/01
							開講期	前期
教科担当	別紙参照							
実務経験教員授業	該当	総時限	32時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験	単元・期末試験 レポート評価 取組加減
・自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。								
〔授業概要・目的〕 自動車の法令を実車を使用し理解する								
また、エンジン・シャシ系の内容から始動・ブレーキの点検、測定、良否判定が出来るようになることを目的とする。								
〔授業の到達目標〕								
実車を使用し、保安基準を理解する								
車検証を理解し、整備士として正しい知識を身につけ部品の取り付け場所を理解する								
始動装置、ブレーキ部品の分解組み立てや、測定、良否判定ができるようになること								
検査機器の使用方法和、保安基準値の理解								
別表を使用した、点検整備をし、車検証、別表を正しく理解すると共に、記入ができること								
車載診断機が使用できる								
タイヤチェンジャーが安全に使用できる								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点 60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
〔使用教科書・教材等〕 実習車両 車検証 サーキットテスト パーツリスト								
2級、3級シャシ 法令教材 自動車整備工具・機器 点検の手引き 自動車と環境問題								
(2輪コースでは、実習内容により2輪を使用)								
STEP	標準時限	授業内容(項目)						
1	2	車検証 車検証及び自動車記録事項証明書の理解						
	2	点検①エンジン 12カ月点検						
	2	点検②下回り(足回り) 12カ月点検						
	4	保安基準 実車を使用した保安基準の確認						
	2	タイヤ タイヤ交換						
	2	単品ブレーキ分解・組立 単品のドラムブレーキの分解						
	2	単品授業の見直し						
2	2	黒煙テスト・オパシメータ 黒煙テスト及びオパシメータの測定方法・保安基準						
	2	CO・HCテスト 音量計 CO/HCテスト及び音量計の測定方法・保安基準						
	2	ヘッドライトテスト ヘッドライトテストの測定方法・保安基準を理解						
	2	マルチテスター(kgf) サイドスリップ・制動力・スピード試験の方法を理解						
	4	12ヶ月点検(1年) 点検記録簿を基に点検実施						
	2	12カ月点検 点検時に使用する車載診断機による診断						
	2	e-ディーラー HONDAの販売店の仕組みを理解し、見積書を作成						

授業計画(シラバス)

[illegible]

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実習 自動車整備作業	科目	故障原因探求(実習)	対象級	専門課程 自動車整備科 2年	作成月日	25/04/01
						開講期	後期
教科担当	別紙参照						
実務経験教員授業	該当	総時限	28時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験 単元・期末試験 レポート評価 取組加減
・自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。							
〔授業概要・目的〕							
機械系の故障診断における診断手法と対応手法を理解習得実践する。							
電子制御システムの診断手法の基本を理解習得する。							
〔授業の到達目標〕							
1)HDSの基礎的な作業ができること。 テスターを使用して各電気装置の単品ボードで故障探求ができること。							
2)HV車のHVシステム簡易点検が安全にできること。							
3)実車を使用して電子制御系やエアコンの故障診断ができること。							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔使用教科書・教材等〕							
低圧電気取り扱いテキスト、ホンダSE3級ハード偏、デジタルテスター、HDS一式、オシロスコープ、絶縁工具等							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
1	2	低圧電気取り扱い講習 HV車①					
	2	低圧電気取り扱い講習 HV車②					
	2	始動装置の故障探求					
	2	エアコンの故障探求					
	4	点火装置の故障探求					
	4	充電装置の故障探求					
	4	PGM-FI					
	2	始動装置の故障探求					
	2	エアコンディショナ					
	4	HDS					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実習 自動車整備作業	科目	総合自動車整備シャシ	対象級	専門課程 自動車整備科 2年	作成月日	25/04/01
						開講期	後期
教科担当		別表参照					
実務経験教員授業	該当	総時限	28時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験 単元・期末試験 レポート評価 取組加減
・自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。							
〔授業概要・目的〕							
シャシ系の構造、機能、整備について実習することで、二級ガソリン、ジーゼル自動車整備士国家試験（登録試験）の							
シャシ部門において合格できるレベルの知識習得を目的とする。							
安全作業、測定器具の取り扱い、油圧測定、分解方法を習得する。							
〔授業の到達目標〕							
AT、油圧PS、アライメント、クラッチ、ブレーキ、サスペンション、の脱着、分解、測定を理解習得する							
12ヶ月点検、車検項目に対し良否判断および整備が出来る様になる							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
〔使用教科書・教材等〕							
二級自動車シャシ、三級自動車シャシ、点検の手引き							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
1	4	・三軸ATの伝達効率、機能、構造から故障原因、対処法を学ぶ					
	4	・パワーステアリング(実車)の脱着					
	2	・HDSの取り扱い・カスタマイズ項目の確認、作動の確認					
	2	・ホンダマルチマチックの分解、組付けを学ぶ					
	4	・ダブルウィッシュボーンのスプリング交換要領を学ぶ。					
	4	・MT不具合箇所の測定による良否判断、故障診断を学ぶ。					
2	4	・車検整備受付から引き渡しまでの流れを学ぶ					
	4	・車両へAT油圧ゲージを取付け測定方法を学ぶ					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実習 自動車検査作業	科目	総合自動車整備 検査		対象級	専門課程 自動車整備科 2年	作成月日	25/04/01
							開講期	後期
教科担当	別紙参照							
実務経験教員授業	該当	総時限	28時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験	単元・期末試験 レポート評価 取組加減
・自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。								
〔授業概要・目的〕								
自動車の法令を実車を使用し理解すると共に、シャシの内容から大型のエア－関係の装置を理解する								
また、HONDA SE3級の内容として保証制度、AWDについても理解する								
〔授業の到達目標〕								
実車を使用し、保安基準を理解する								
単品部品を使用し、大型エアブレーキ、エア－サスペンションを理解する								
補助ブレーキ、差動制限型ディファレンシャルを理解する								
検査機器の使用方法和、保安基準値、良否判定の理解								
マルチテスタ(N)を使用し制動力、サイドスリップ、スピードメータテスタを理解する								
HONDAの販売店システムの理解 HONDAのAWDシステムの理解								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)								
〔使用教科書・教材等〕 実習車両 車検証 サーキットテスタ パーツリスト								
2級、3級シャシ 法令教材 自動車整備工具・機器 点検の手引き 自動車と環境問題								
授 業 計 画 表								No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)						
1	2	12ヵ月点検 12ヵ月点検が実施でき、記録簿の記入が出来る						
	2	テスタ総合 検査機器が使用でき、基準値を基に良否判定が出来る						
	2	補助ブレーキ						
	2	制動力(N)						
	4	大型コンプレッサ、ブレーキ、サスペンション						
	2	大型ブレーキ						
	2	エアサス、インタアクスル						
	2	単品のブレーキの分解組付け						
	2	e－ディーラ						
	4	24ヶ月点検(車検)＋ 保証制度						
	2	DPS						
	2	4WD						

授業計画(シラバス)

[illegible]

授業計画(シラバス)

[illegible]

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

[illegible]

授業計画(シラバス)

[illegible]

授業計画(シラバス)

[illegible]

授業計画(シラバス)

教科	実習 自動車整備作業	科目	新機構・次世代技術		対象級	専門課程 自動車整備科 2年	作成月日	25/04/01
							開講期	後期
教科担当	別紙参照							
実務経験教員授業	非該当	総時限	34時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験 期末試験	
〔授業概要・目的〕								
将来のモビリティ技術と社会の変化に対応する授業を提供し、技術者としての幅を広げさせる。								
メーカー校としての特色、魅力を発揮し、他校競争力を強化する								
〔授業の到達目標〕								
1) ホンダ製品の技術・知識を習得させ整備サービス応用力(SE3級以上レベル)を身に付けさせる								
2) 電気・制御・情報技術サポート等の技術を習得させ応用整備サービス力を向上させる								
3) 社会の変化で生じている様々な技術等を学ばせ、技術者としての幅を広げさせる								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)								
〔使用教科書・教材等〕								
車両・単品教材・SE3テキスト・サービスマニュアル・外部診断機								
授 業 計 画 表								No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)						
1	8	【エンジン】						
		・ホンダセンシング ・i-HDS ・センサ類 ・VTCモータ						
	8	【電装】						
		・製品技術 ・ホンダコネクト ・電動サーボブレーキ ・スマートキー ・故障対応フィールドレポート						
	8	【シャシ】						
		・DCT分解組み立て						
	8	【検査】						
		・アライメントテスター ・エーミング						
	2	実習確認						